巻頭言

第73巻の巻頭にあたって

全国国立病院院長協議会
会長

大　島　久　二

IRYO　Vol. 73　No. 1（3）2019

新年おめでとうございます.「医療」第73巻の発行にあたり，ご挨拶申し上げます.

私は，平成22年から29年まで，国立医療学会誌である「医療」の編集委員長を務めてまいりました. この間に「医療」創刊70年を迎え,「医療」創刊時の本誌に対する気概を深く感じることができました. 終戦後まもなく，旧陸海軍病院が国立病院となり，当時の厚生省医療局長塩田廣重氏が「医療」創刊号において,「博愛仁慈の根本精神」に基づいて懇切丁寧な診療を行うべきなのはいうまでもないが，この根本精神は科学によって堅く裏づけられていなければならない，と述べています. まさに，戦後の混乱期において科学的根拠の重要性を指摘されていることは，世界の情勢と医学の根底を見据えた大局的な考え方であり，ただ敬服するのみです. この様な壮大な考えのもとに，今日まで「医療」の多くの論文が掲載されたことは，誠に素晴らしいことであると感じています.

一方，近年は医学の科学的根拠となる研究分野においても大きな進歩と社会的変化があります. 基礎領域の目覚ましい進歩は，生物学的製剤，iPS 細胞，ゲノム解析とがんゲノム医療，ロボット支援手術などを推し進めています. さらに，わが国の高齢化に伴う医療費増加と若年人口の減少が医療の現場にも大きく影響しています. 臨床研究に関しても，臨床研究に関する倫理指針の改定に加え,「特定臨床研究法」も定められ，適切な手続きと遂行体制の整備が求められる様になりました. また，本年から施行される働き方改革により，医療者とくに医師の働き方に大きな変化のあることが予想されます. この様な中，今後の患者さんへの医療を支える，現場からの科学的根拠のある論文が切実に求められるとともに，研究者への幅広いサポートが必要になってきていると思われます.

本誌は，他の医学誌と異なり，医師のみならず，事務職を含めたコメディカルからの投稿が特徴です. さらに，直接治療法に関わる内容のみならず，病院や地域における医療全般の水準をいかにして上げていくかという，現場の医療に直結した貴重な内容が多く見られます. このため，１つの論文でも幾多の職種がチームとなって活動した結果が見られます. 実際の医療の現場では，改善可能な点や潜在的なシステムの変更点など，多くの細かな点があると推測します. 最善の医療を提供するためには，偉大な発見のみならず，現場の小さな改善を積み重ねていくことも大変重要であると考えられます. 従って，本誌の内容は，実際には多くの現場の医療者にとって極めて有用なものであることに疑いはないものであります.

国立医療学会による「国立病院総合医学会」と学会誌である「医療」は，共にわが国の医療を現場から向上させていくための極めて重要な手段の１つであり，国立医療学会の会員が持つ大変有利な仕組みであると考えられます. このところ，総合医学会での発表数は多くなっていますが,「医療」への投稿数と国立医療学会の会員登録は減少傾向の様です. 是非，総合医学会への参加とそこでの発表のみならず,「医療」にその成果を発表し，全国の医療者に多くの知見を届けることより，我々に与えられた科学的根拠に基づいた医療を博愛仁慈の根本精神で実行することができる様になることを願っています.